

更衣動作における行動連鎖

Behavioral Chains of Upper-Body Dressing

○松本裕子*・鈴木誠*

Yuko MATSUMOTO and Makoto SUZUKI

川崎市立多摩病院リハビリテーション科

Department of Rehabilitation Medicine, Kawasaki Municipal Tama Hospital

I. 目的

脳卒中により運動麻痺を呈した対象者に対する更衣動作訓練は、運動麻痺を生ずる以前にはなかった新たな行動連鎖を学習する過程である。しかし、運動麻痺を呈した対象者が、どのような行動連鎖を用いて更衣動作を遂行しているのかについては、いまだ明らかとなっていない。そのため、リハビリテーションの場面においては、運動麻痺の重症度に応じた適切な更衣動作方法を対象者に提供することが困難な状況である。

そこで本研究では、運動麻痺を呈した対象者の更衣動作における行動連鎖を明らかにすることを目的とした。

II. 対象

脳卒中による片麻痺を有し、前開きパジャマの更衣が自立していた33名（右片麻痺16名、左片麻痺17名、男性23名、女性10名、平均年齢63.76歳）、及びかぶり服の更衣が自立していた22名（右片麻痺9名、左片麻痺13名、男性16名、女性6名、平均年齢65.64歳）を対象とした。

III. 方法

まず、前開き服の着衣動作を8段階（①患側手を袖に通す、②患側肘を袖に通す、③患側肩を袖に通す、④健側手を袖に通す、⑤健側肘を袖に通す、⑥健側肩を袖に通す、⑦衣服を背中から渡す、⑧ボタンをはめる）、前開き服の脱衣動作を6段階（①患側肘・手を袖から抜く、②患側肩を抜く、③健側肘・手を袖から抜く、④健側肩を抜く、⑤衣服を背中から外す、⑥ボタンを外す）、かぶり服の着衣動作を7段階（①患側手を袖に通す、②患側肘を袖に通す、③健側手を袖に通す、④健側肘を袖に通す、⑤両肩を袖に通す、⑥頭を通す、⑦裾を下に引く）、かぶり服の脱衣動作を7段階（①患側手を袖から抜く、②患側肘を抜く、③患側肩を抜く、④健側手を袖から抜く、⑤健側肘を抜く、⑥健側肩を抜く、⑦頭を抜く）の行動連鎖に分類した。

次に、対象者の更衣動作を観察し、分類した行動連鎖がどのような順序によって構成されているのかについて調査した。

IV. 結果

前開き服の着衣動作に関する行動連鎖は、7パターン、前開き服の脱衣動作は、15パターン、かぶり服の着衣動作は11パターン、かぶり服の脱衣動作は15パターンに分類された。

前開き服の着衣動作に関する行動連鎖で最も多いパターンは、運動麻痺の重症度にかかわらず、「①患側手を袖に通す⇒②患側肘を袖に通す⇒③患側肩を袖に通す⇒⑦衣服を背中から渡す⇒④健側手を袖に通す⇒⑤健側肘を袖に通す⇒⑥健側肩を袖に通す⇒⑧ボタンをはめる」であった。前開き服の脱衣動作において最も多いパターンは、運動麻痺の重症度にかかわらず、「⑥ボタンを外す⇒③健側肘・手を袖から抜く⇒④健側肩を抜く⇒⑤衣服を背中から外す⇒①患側肘・手を袖から抜く、②患側肩を抜く」であった。かぶり服の着衣動作については、麻痺が軽度な対象者では、「①患側手を袖に通す⇒②患側肘を袖に通す⇒③健側手を袖に通す⇒④健側肘を袖に通す⇒⑥頭を通す⇒⑤両肩を袖に通す⇒⑦裾を下に引く」の行動連鎖が最も多く、麻痺が重度の対象者では、「①患側手を袖に通す⇒②患側肘を袖に通す⇒⑥頭を通す⇒③健側手を袖に通す⇒④健側肘を袖に通す⇒⑤両肩を袖に通す⇒⑦裾を下に引く」の行動連鎖が最も多かった。かぶり服の脱衣動作については、麻痺が軽度な対象者では、「⑦頭を抜く⇒⑥健側肩を抜く⇒⑤健側肘を抜く⇒④健側手を袖から抜く⇒③患側肩を抜く⇒②患側肘を抜く⇒①患側手を袖から抜く」と、「⑦頭を抜く⇒④健側手を袖から抜く⇒⑤健側肘を抜く⇒⑥健側肩を抜く⇒③患側肩を抜く⇒②患側肘を抜く⇒①患側手を袖から抜く」の行動連鎖が最も多く、麻痺が重度の対象者では、「⑦頭を抜く⇒①患側手を袖から抜く⇒②患側肘を抜く⇒③患側肩を抜く⇒⑥健側肩を抜く⇒⑤健側肘を抜く⇒④健側手を袖から抜く」の行動連鎖が最も多かった。

V. 論議

運動麻痺を呈した対象者の更衣動作における行動連鎖には、様々なパターンが存在することが明らかとなった。今後は、運動麻痺の重症度に応じた、より効率の良い行動連鎖の指導について、さらに検討していく必要があると考えられた。